

	1
プロジェクト名	アグリッジプロジェクト(Agridge Project)
プロジェクト名 (in English)	Agridge Project
プロジェクトの種類	学生公募型プロジェクト
主担当教員	池島祥文
副担当教員	小林誉明
担当教員 代表者のメールアドレス	ikejima@ynu.ac.jp
学生公募型プロジェクトの場合の「代表学生」	石井夏帆、藏重光希
学生公募型プロジェクトの場合の「代表学生」のメールアドレス	face.kmmy@gmail.com
留学生の履修・参画 Enrollment and Participation of Overseas Students	○（日本語の「日常会話レベル」が可能な方は履修・参画可能。）
「プロジェクト概要」	農業や食を通じて地域活性化に取り組む。大学近くの畑での実践やイベントへの出店、フードロス削減のための商品考案を行う。
プロジェクトの概要・目的・内容	農業や食による地域活性化を目的として大学近くの畑や周辺の地域を拠点に活動する。「ビジネスによる経済活性化・地域コミュニティの活性化・技術開発(研究)による活性化」という3つを軸にして、多数のプレイヤーを巻き込みながら学生が主体となり多様な活動をしていく。
年間スケジュール（注1:履修学生は地域課題実習Ⅰ・Ⅱ、Ⅲ・Ⅳ、Ⅴ・Ⅵにおいての通年での活動を前提としているが、活動が集中する時期・内容等について概略を記載のこと。）	4～5月:組織づくり・研修・既存プロジェクト始動、6～7月:活動、8月:春学期の活動締めくり、9月末:プロジェクト評価・方針修正、10～2月:活動、2月中旬:活動の締めくりと年度末報告
当PJを通じて習得してほしい知識・技術・能力)	関心分野や専門分野のスキル・知識を得ることはもちろん、外部関係者と自分で交渉し巻き込む力やPDCAを回す力、プロジェクトマネジメント力など、社会人として重要な能力の習得を重視している。
活動・ミーティングの頻度	野菜の生育管理など恒常的な活動はあるものの、参加頻度は各学生の関わり方による。固定の活動ではなく、畑の状態やイベント等、必要に応じて日程を調整し活動を行う。
備考（注2:参画希望者に対して、特に条件を要する場合は必ず記入のこと。）	
活動情報掲載サイト（HPやSNSサイト等）	https://agridge-chiiki-kasseika.localinfo.jp/ https://twitter.com/agridge_project https://www.instagram.com/agridge_project

2	3
鶴見区での外国人児童の学習支援	BOSAIラボ
Assistance to Non-Japanese School Children in Tsurumi Ward	BOSAI Lab. (Disaster Mitigation Lab.)
課外実習プロジェクト	課外実習プロジェクト
山崎圭一	小松怜史
	稲垣景子, 細田暁
yamazaki-keiichi-zg@ynu.ac.jp	komatsu-satoshi-yx@ynu.ac.jp
×(日本語による専門科目や演習に参加できるレベルの日本語ができない場合は、受け入れ不可。)	○(日本語の「日常会話レベル」が可能な方は履修・参画可能。)
鶴見区の入船小学校でブラジル人などの外国籍の児童の学習支援をNPO法人ABC Japanの活動に参加する形で実施する。	災害に関する知識を身に付け、コミュニティの課題を把握し、防災のあるべき姿を仲間と議論することで、解決策を提案・実践する。
ブラジル政府の最高勲章や日本の外務大臣賞など多文化共生の分野で数々の賞を受けてきたNPO法人ABC Japanの学習支援活動「つるみーによ」に参加する(横浜市のボランティア登録をする)形で、横浜市立入船小学校の外国籍児童の学習支援を実施する。大学では外国人労働者問題や多文化共生の関連文献を輪読し、研究・調査課題を明らかにする。学習支援の対象者は外国語が通じる児童も多いが、学習支援は日本語で行う。	「防災・減災」に対して、自分たちが学生の立場でできることを考え、実践・研究に取り組んでいます。昨年度は「横国生」「避難所」「防災行動」「まち歩き」の4つの実践チームに分かれて活動し、留学生向けの防災イベントやアンケート調査、フィールドワークなど、形につながるような活動を行っています。定期的に福山市立鞆の浦学園を訪問し防災授業のお手伝いを行っているほか、被災地への出張見学会も行っています。
通年で活動があるが、「つるみーによ」については、3月と8月は基本的には開催されない。入船小学校の都合により、開催頻度が非常に少ない月もあり、年度によって異なっている。	4月:オリエンテーション/全体MTG(2~3か月に1回)/チームMTG(2週間に1回程度)/2月:最終報告会
外国人労働者問題や多文化共生についての専門的知識、横浜市鶴見区の経済と社会についての知識、小学校低学年への学習支援の技術	防災に関する正しい知識を身に付け、自助、共助、公助の基本的な考え方を理解する。仲間と共に、コミュニティが抱える課題を把握し、解決策を模索し、実践する能力を身に付ける。常時・非常時に防災・減災に資する活動ができる人財となる。
学習支援ボランティアは1か月に2~3回で、火曜日の午後2時半頃からの1時間である。大学の授業と重複する人もいるので、ボランティア活動は1年で、5回程度の参加でもよい。大学での輪読などの研究会は、不定期開催で、履修する学生の都合にあわせて時間を設定し、対面かオンラインかの形式も希望に応じて柔軟に対応する予定である。	全体MTG:学期に一回 / チームの活動:月1~3回程度 忙しい時期は週1~2回
担当教員は経済学を専門としているが、本プロジェクトの参加学生に求める学問分野の知識はとくにない。経済学や教育学や児童心理学や応用言語学(日本語教育)などの知識が必要というわけではない。	
ABC Japanの公式ウェブサイト: https://www.abcjapan.org/	・ https://bosai-lab.ynu.jp/ ・ https://twitter.com/ynu_bosai_lab ・ https://www.instagram.com/ynu_bosai_lab/

4	5
地域と移動から見たまちづくりの実践～ロカモビプロジェクト～	コットンおとなりさんプロジェクト
Community development practice from the perspective of locality and mobility	Cotton Otonarisan Project
学生公募型プロジェクト	学生公募型プロジェクト
池島祥文	伊集守直
	関芙佐子
ikejima@ynu.ac.jp	iju-morinao-sx@ynu.ac.jp
伊藤広登、浴多佑(共同代表)	美藤優斗
伊藤→ito-hiroto-jf@ynu.jp、浴→eki-tasuku-xm@ynu.jp	bito-yuto-rd@ynu.jp
×(日本語による専門科目や演習に参加できるレベルの日本語ができない場合は、受け入れ不可。)	○(日本語の「日常会話レベル」が可能な方は履修・参画可能。)
まちの魅力を高めるために地域と移動の視点から地域の方々や企業、行政、学生内の対話を通じて実践的にまちづくりに取り組む。	コットンハーバー地区を舞台として、神奈川大学の学生や地域の自治会などと連携して、地域のつながりづくりに取り組んでいます。
まちの魅力を高めるために、モビリティ(移動のしやすさ)のあり方の提案・実装を目指す。2024年度は「地域情報のマップ化」「地域拠点からつながりをまちに拓く活動」「みらいの駅まちを描く活動」に取り組む。	横浜市東神奈川にあるコットンハーバー地区という場所で、世代を超えた居場所づくり・コミュニティづくりを目的として地域自治会や関係者、神奈川大学の学生と連携して活動しています。具体的には、交流の居場所づくりを目的としたCCTパーク(CCTはコットン・コミュニティ・タウンというコットンハーバー地区の交流促進を目指す有志団体の略)という企画や子供の遊び場であるプレイパーク、フリーマーケットなどを企画・運営しています。
年間を通じてチームごとに設定したテーマや方針に基づいて取り組み、プロジェクトの成果は年1回の報告会にて発表する。具体的な進め方については④で示す。	4回のCCTパークの開催とともに、11月のフリーマーケットに向け、CCTパークにおいて出店者同士での交流など段階的な準備も進めていきます。年6回のプレイパークも行います。
人々の移動のしやすさとまちづくりの関係を学び、地域の課題解決や目標達成のための交通サービスのあり方、空間のあり方、情報提供のあり方を考え、それらの具体的な実現方策を描き出し、実現する力をつける。	地域団体や自治会等との交流を通じて、コミュニティづくりの実践的な課題や解決方法を考えていきます。企画力や文章作成力、HPやLINEなどSNSを活用した発信力も身に付けます。
班の方針や時期によるが、基本的に2週に1回のチーム会議、1か月に1回のカウンタパートナーとの合同会議を行う。	基本は週に一回学生同士で対面でミーティングを行います。時期によって自治会との合同ミーティングをオンラインで行ったり、神奈川大学の学生との合同ミーティングを行ったりします。
地域の方々や企業、行政、そしてメンバー内での対話を通じて、一緒に実践的なまちづくりを学んでいきましょう。	
X(twitter): @ynu_mobility HP: https://mobilitydesign.localinfo.jp/	CCT HP: https://cottonct.org/

6	7
キャンパスの魅力を開拓プロジェクト	"縁食の場"を開拓プロジェクト
Cultivating attractions of campus project	Cultivating spaces of "Enshoku" as a community hub
課外実習プロジェクト	学生公募型
藤原徹平	寺田真理子
fujiiwara-teppe-i-tw@ynu.ac.jp	terada-mariko-zt@ynu.ac.jp
	物部果穂
	monobe-kaho-zm@ynu.jp
○(日本語の「日常会話レベル」が可能な方は履修・参画可能。)	○(日本語の「日常会話レベル」が可能な方は履修・参画可能。)
キャンパス内の資源を活用しながら、学生や地域の方にとってより魅力的な居場所づくりに取り組んでいます。	キャンパスを学生だけでなく、地域の人たちにとってもアクセスしやすい、いろいろな人との魅力的な交流の場所となっていくよう、「食」を中心とした場の創出を試みる。
キャンパス内の資源を活かした居場所づくりに取り組んでいます。居場所をつくること、つかうことを通じて地域との交流を深めることを目的としています。日干しれんがの工法研究に始まり、建築学科棟横の居場所づくりや、窯を中心とする新たな活動の創出に取り組んできました。これからも地域の方が多く訪れる横国に相応しい、学生と地域の交流の在り方を模索していきます。	藤原辰史さんの「縁食論」を通じて、食卓を囲むコミュニティは交流を生む大切な場だと考えています。大学内には、「食」にまつわる資源がたくさんあり、キッチンPJではパワープラントホールのキッチンを資源ととらえ、懇親会・読書会・キッチン什器の製作を通して、様々な分野の学生たちや、地域の人々が交流できる「コミュニティ・ハブ」を創出を目指します。
1年を通してスタディと実践を繰り返します。活動は月に1回程度ですが、夏休みは活動頻度が増えます(月に3~4回程度)。春学期は日干しれんがの作り方のレクチャーから始まり、これをもとに新たな居場所のスタディをします。夏休みを中心に、スタディで構想したものを実際につくっていきます。秋学期には実際につくったものの効果などを評価し、改善策を話し合い、反映させるなどしてブラッシュアップしていきます。	ミーティングを週に1回程度行っています。月に2回ほど懇親会や読書会を行っており、企画の運営、メニューの作成、調理等を行います。今年度は、読書会やレクチャー、イベントの運営を通して、より大学が地域に開かれた場になるような活動を広げていきます。
キャンパス内での居場所づくりを通して、地域との関わり方を空間から考える術を一緒に身につけていきましょう。他にも土という天然材料を用いた造作や、デザインに用いるPCソフト(画像編集ソフトやCADなど)の使い方についても学べます。	キャンパス内の「食」を中心とした居場所づくりを通して、地域との関わり方を考える術を一緒に身につけていきましょう。他にも、キッチンを中心とした空間構成、企画・運営・経営の仕組みを学んでいきます。
月に1回程度。夏休み中は月に3~4回程度。	週1回のミーティング。月1回読書会・懇親会。
メンバーは建築学科が集中していますが、他の学科からの参画も大歓迎です!多角的な視点からぜひ一緒にキャンパスをより魅力的に耕していきましょう。	メンバーは建築学科が多いですが、昨年度はアグリッジPJとのコラボなどがあり、もっと他学科の学生と一緒に活動していきたいと考えています。
https://www.instagram.com/ynucampusj?igsh=MTV3MmR2NwVuaWNwNA==	

8	9
ジビエ料理研究会	はまみらいプロジェクト
Gibier cooking project	Hamamirai Project
学生公募型プロジェクト	課外実習プロジェクト
池島 祥文	吉田 聡
	野原卓、稲垣景子
ikejima@ynu.ac.jp	yoshida-satoshi-vx@ynu.ac.jp
田室 志織	
tamuro-shiori-ms@ynu.jp	
○（日本語の「日常会話レベル」が可能な方は履修・参画可能。）	○（日本語の「日常会話レベル」が可能な方は履修・参画可能。）
地方の農業を獣害から守るために、鹿肉を中心としたジビエ利用を研究、促進しています。	横浜の資源でもある「うみ」と「まち」の関係を考えながら、横浜の未来を考えるプロジェクト。具体的には「観光と賑わい」「防災・安全」「脱炭素エネルギー」を軸に取り組んでいく。
現在、日本の農業において増加している獣害を防ぐことで、地域経済の促進を目指します。今でも地方自治体による補助金でハンター活動が行われていますが、駆除された獣の肉はほとんど未利用で処分されています。我々はそのような獣肉を有効利用する調理方法や、肉の流通ルートを開発することで獣肉の需要を喚起し、市場原理で獣肉の狩猟、流通、消費の流れができるように努力します。	横浜の資源でもある「うみ」と「まち」の関係を考えながら、横浜の未来を考えるプロジェクト。具体的には「観光と賑わい」「防災・安全」「脱炭素エネルギー」を軸に取り組んでいく。
春学期はジビエについての勉強会やレシピの試作会を行います。昨年は棒葉焼きや鹿肉トルティーヤ、一昨年は鹿肉シチューやハンバーグを試作し、レシピを研究しました。秋学期は最初に常盤祭がありそこで鹿肉を使った料理の調理と販売を行います。その後は作成したレシピをコンテストに出品するなどして(昨年度は「美しい村レシピコンテスト」)学外にレシピを公表し、外部の人に評価いただいています。	2週に1回程度のミーティング、2か月に1回の外部組織(UDC-SEA)との会議を通して、年に2-3回のイベントを企画、開催予定。
現代の日本の農業や地方都市が抱える問題を考える能力を修得していただきたいと考えています。PJでは料理や工作を頻繁に行いますが、単に上手く作るだけでなく、食材を得るための経済や流通などの経済面での知識や、料理や工芸品の歴史や文化面での背景を理解してほしいと思います。	横浜の資源でもある「うみ」と「まち」の関係を考えながら、具体的に地域に対してどのようなアクションを興すことができるか、「観光と賑わい」「防災・安全」「脱炭素エネルギー」を軸に横断的に考える力をつける。
原則として全員参加の定期的なミーティングについては、月二回のペースで行っています。それ以外にも料理研究や博物館見学、現地見学など、不定期のイベントが月に数回あります。こちらは希望参加です。	月に1回、外部組織(UDC-SEA)との会議 2週に1度程度の会議。外部組織や地域と連携した企画への参画等。
	連携外部機関: UDC-SEA、横浜観光コンベンションビューロー、横浜みなと博物館、幸海ヒーローズ、等
インスタ: https://instagram.com/kawaneyokokoku?utm_source=qr&igshid=MzNlNGNkZWQ4Mg%3D%3D X: https://twitter.com/kawaneyokokoku?t=Rft9spnKqmyEY__ki8n3w&s=09	https://hamamirai.localinfo.jp/

10	11
オモロイ病院プロジェクト ～産・学・医連携における課題発見・解決授業～	島プロジェクト in 鳥羽
Interesting and Comfortable Hospital Project	Island Project in Toba
課外実習プロジェクト	課外実習プロジェクト
下野誠通	小林誉明
大沼雅也、田中稲子、田中伸治	
shimono-tomoyuki-hc@ynu.ac.jp	kobayashi-takaaki-gv@ynu.ac.jp
○（日本語の「日常会話レベル」が可能な方は履修・参画可能。）	○（日本語の「日常会話レベル」が可能な方は履修・参画可能。）
YNU新湘南共創キャンパスに隣接する地域中核病院である湘南鎌倉総合病院等と連携し、病院内外の様々な課題を発見・解決する。	島を起点に文化や生活を理解し、その中で発見した強みを伸ばし弱みを補う工夫を地域の方々と共に探っていく団体です！
YNU新湘南共創キャンパスに隣接する地域中核病院である湘南鎌倉総合病院等と連携し、病院内外を中心とする様々な地域課題の発見・解決に取り組む。具体的には、「診療待ち時間」、「病院までのアクセスと治療までのアクセス」、「エネルギー（照明点灯時間、電気量）」、「転倒転落」といった病院の困りごとについて、具体的な課題を抽出し、解決法について検討を深める。	私たちは三重県鳥羽市答志島を起点に島の文化や生活を理解し、建築や経営など学校内で学んだことが課題に対してどう活用できるかを探っていく団体です。現在は、答志島内にある集落の一つ和具地域において団体内コンペによって選ばれた学生拠点プロジェクトとウッドデッキ制作プロジェクトを運営しています。かけがえのない島での営みを持続可能にし、後世に残していくことを目指して活動しています！
毎月、定期的に湘南鎌倉総合病院等との連携ミーティングを開催する予定である。病院での現地実習等の集中時期は参加学生と相談の上、他の授業等への影響を考慮して検討する。	年間を通して週1回のミーティングを元に島でのイベント企画や建築物の設計・コンセプトを考えるなどしていました。特に夏季・冬季休暇の最低限2回は実際に島へ渡島することを計画しています。
新湘南では2032年頃にJR新駅が開設される計画であり、新たなまちづくりが進められている。健康長寿のまちという地域ビジョン実現に向けた課題発見・解決活動に取り組むことで、学際的な視野を培ってほしい。	①発想力②実践力③コミュニケーション力 この3つを特に習得して欲しいです！ ①発想力 島の抱える課題を解決するイノベティブな発想 ②実践力 自分の持つ知識や技能を実際に行動に起こすこと ③コミュニケーション力 島の人々と共に活動する上で必須です。
病院関係者と毎月1回程度の定期ミーティングを開催する予定である。病院内での調査研究等の実施活動頻度については、参加学生と相談の上で具体的に検討する。	授業期間：週1回のミーティング 長期休暇：渡島
病院内での調査研究活動も予定されているため、医療従事者、患者等に迷惑がかからないように、節度ある行動を心がけること。	
https://www.tokushukai.or.jp/media/newspaper/article.php?newspaper_number=1394&article=4&number=13	https://www.instagram.com/shimapj_toba

12	13
岩手らばーず	都市と里山の自然を楽しむライフスタイル
Iwate-Lovers	Lifestyle to enjoy nature in the city and satoyama
学生公募型プロジェクト	課外実習プロジェクト
田中 稲子	小池文人
itanaka@ynu.ac.jp	koike-fumito-nx@ynu.ac.jp
西條 匡杜	
saijo-masato-kh@ynu.jp	
×（日本語による専門科目や演習に参加できるレベルの日本語ができない場合は、受け入れ不可。）	◎（日本語が「あまり話せないレベル」の方も、英語で学修できるレベル(CEFR B2以上)であれば、履修・参画可能)
横浜から遠く離れた岩手で、様々な活動に取り組み地方創生などについて考え行動するプロジェクトです！	都市生活者が日常的に身近な自然を楽しむライフスタイルを設計して普及します。
横浜から遠く離れた、岩手県を中心とした東北を舞台に様々な活動に取り組んでいきます！首都圏ではできないような体験を通して、地方のこれからの在り方などを考え行動するプロジェクトです！農業や漁業などの一次産業、製造業についての体験、沿岸部を訪れて被災地の現状やこれからの考え発信するなどの活動をします！	都市生活者が日常的に身近な自然を楽しむライフスタイルを設計して普及します。関係する自然や制度を学び、新しい楽しみ方を開発するとともに普及方法を考えます。
・夏休みまでに下調べなどの事前学習・夏休みはそれぞれが実際に岩手で活動・春休みまでの期間で夏の活動のまとめや今後の計画建て・春休み、グループで岩手で活動・その他学祭等にも参加	春学期：都市や近郊の潮干狩り、都市の山菜など。秋学期：どんぐりパン、都市の釣りなど季節ごとのテーマと新しい楽しみ方の試行
・首都圏とは違う状況に置かれた地方の目線を手に入れること・岩手の方々と様々な交流をすること・岩手を、東北を好きになること	都市や近郊に自然があることを体験的に知る。利用の制約となる制度や利害関係についての知識と、解決する広い視野を得る。里山の自然の歴史や自然の管理技術・能力を得る。新たなライフスタイルを開発し主導・普及する
・ミーティングは月に1,2回程度・学祭への参加や、長期休みを利用した岩手での現地活動、報告会への参加などが1月に1度ほど・その他、個人やチームでの活動	週1回毎にミーティング
現地での活動を大事にしているので、長期休みに岩手に行けること。	
・instagram…iwate_sustainable ・twitter…iwatelovers ・youtube…@Iwate-sustainable-project-YNU ・HP… https://iwatekyouyouakaunt.wixsite.com/iwatelovers-ynu/blog	http://vege1.kan.ynu.ac.jp/lifestyle/

14	15
New-NewTown プロジェクト ～郊外住宅地のまちづくりを考える～	転倒しない街共創ラボ「こらぼ」
New-New Town Project	No Falling Down City Co-Creation Lab
課外実習プロジェクト	課外実習プロジェクト
野原 卓	島 圭介
	大沼 雅也、下野 誠通、福田 淳二、泉 真由子、田中 稲子、藤岡 泰寛、王天一
nohara-taku-zs@ynu.ac.jp	shima-keisuke-sh@ynu.ac.jp
△(日本語による「専門用語などが理解できるレベル」の方は履修・参画可能。)	△(日本語による「専門用語などが理解できるレベル」の方は履修・参画可能。)
郊外住宅地の相鉄いずみ野線沿線(南万騎が原駅周辺)の地域拠点「みなまきラボ」と連携して、生き活きとした「ニューニュータウン」づくりを行う	高齢者の転倒防止技術の社会実装を目指すリビングラボを開催し、参加者との対話を通して、社会への導入の方法を模索します。
横浜市の特徴的な郊外住宅地の一つである、「相鉄いずみ野線沿線(南万騎が原駅周辺:通称みなまき)」で、相鉄×横浜市×横浜国大×オンデザインでマネジメントする地域のまちづくり拠点「みなまきラボ」と連携することで、高齢化したオールドタウンを、生き活きとした「ニューニュータウン」にするための企画・実践活動を行う。	高齢者の転倒防止技術の社会実装を目指すリビングラボに参加し、様々な参加者との対話を通して、技術開発の方向性や社会への導入の方法を模索します。最先端技術で地域の未来を豊かにする活動に参加しませんか？
4月オリエンテーション、5～6月まちあるきツアー、プロジェクト検討、7～9月 課題解決のための提案、10月～ 企画準備・企画実施、11月～1月 みなまきピクニック参加等、1～2月:活動まとめ。その他随時行われる企画やイベントにより、活動が集中する時期も存在する	年3～4回程度の技術体験会・リビングラボの開催を予定しています。地域住民向けの情報発信イベントなど、調整・相談しながら開催します。昨年度は常盤台・左近山地域ケアプラザでイベントを開催し、YOXOフェスティバル(横浜未来機構)に出展しました。学生自ら活動や発信のフィールドを開拓することも期待します。
自発的で積極的な「活動力」、地域の課題を見抜ける「洞察力」、魅力ある企画を立てる「企画力」、地域とともに動く「巻き込み力・コミュ力」、小さくてもよいかから具体的な物事を実現することに力を注げる「実装力」。自分で自主性をもって積極的に活動を推進できる人、熱意をもって活動できる人を求めています。	地域の高齢者をはじめとする様々な参加者と積極的に対話・交流し、参加者自身の課題や意見を述べていただくことが重要です。PJを通じてヒトの加齢に伴う機能低下への理解を深め、科学技術コミュニケーションの基本を学び、実践経験を積むことを期待します。
2～3週間に一度のミーティング・月一回の地域の会議参画及び地域活動(不定期)の実施。地域との協働により、活動頻度は変わってきます。	3か月に1度程度のリビングラボ(イベント)の企画・運営、個別企画での活動
地域とともに活動するので、自分本位の予定だけでなく、地域の予定や活動の状況も鑑みて年間のスケジュールがきちんと立てられること。	
https://ynunewnewtown.wixsite.com/website?fbclid=IwAR1y18Gn0-mnnhc7XBJA4tbt5MOSglB8bvoj4OCieZEUdKxsajYV4_Wz0UM	http://bsd.ynu.ac.jp/

16	17
おたクリエイティブタウン研究プロジェクト	伝統茅葺き民家「花三郎の家」継承プロジェクト
Ota Creative Town Project	Project of preservation and utilization of the thatched-roof private house “Hanasaburo-no-Ie” in Kamadai
課外実習プロジェクト	課外実習プロジェクト
野原 卓	大野敏
	守田正志、菅野裕子
nohara-taku-zs@ynu.ac.jp	ono-satoshi-cs@ynu.ac.jp
△(日本語による「専門用語などが理解できるレベル」の方は履修・参画可能。)	△(日本語による「専門用語などが理解できるレベル」の方は履修・参画可能。)
大田区で、技術×創造×生活による「クリエイティブ・ファブタウン」構想を基に、地域拠点「くりらぼ多摩川」の運営、おたオープンファクトリーへの参画などを通じた創造活動を行う。	緑多い屋敷奥に眠る江戸時代の古民家「花三郎の家」。所有者さんと連携して継承手法を具体的に考えます。
モノづくりのまち大田区で、技術×創造×生活による「クリエイティブ・ファブタウン」構想を基に、(一社)大田クリエイティブタウンセンターや地域の町工場、諸団体と協働して、地域まちづくり拠点「くりらぼ多摩川」の運営、モノづくりのまちづくりイベント(おたオープンファクトリー)への参画、モノづくり教育企画(ファクトリップ)や廃材活用(SCRAP)など、創造的な活動を行う。	江戸時代の古民家「花三郎の家」。釜台町が住宅地化する以前の1960年代に旧津久井郡から移築されました。移築主は鈴木花三郎さん。会社経営者だった花三郎さんは、富士山が眺望できるこの地に素敵な本宅を構え、その前方に古民家を移築して社員の情操教育に活かそうとしました。花三郎さん没後、古民家は活躍の場を失っていましたが、所有者さん(花三郎さんのお孫さん)と連携して、この家を蘇らせ活かす方法を皆で考えましょう。
4月 オリエンテーション、5~7月 企画準備及び地域活動参加、8~10月 企画準備、11月 おたオープンファクトリー(イベント)、その他不定期の地域活動。特に、11月近辺のイベントに向けては作業が集中する可能性がある。また、活動内容によって集中期は変わる。	春学期および秋学期とも通じたプロジェクトのため、通年で活動を行います。現地での活動は毎月一回を基本とし、学期末には活動成果講の総括公開でおこないます。春学期の総括は夏休みに、秋学期の総括は春休み中に実施する予定です。
モノづくりのまちにある課題を自ら「見抜き」、これを解決して豊かなまちとするための「企画を立て」、地域の方々や仲間を「巻き込み」、小さくてもよいから物事を積極的に実現することに力を注げる「実装する」力。特に、自分で熱意と自主性をもって、積極的に活動に参画し、地域と協働できる人を求めます。	伝統的な建築資産を継承している所有者および資産に敬意をもって接することができる素養。伝統的建築とその環境の維持継承に対する基礎知識。所有者・地域の人・仲間とのコミュニケーション能力。
2週に1回程度のミーティング及び地域活動(地域で月1度程度の会議及び不定期の地域活動(土日開催もある))	12に記載した通り、現地での活動は月一回とする。現地活動の間はあらかじめ示すプログラム(春学期は花三郎の家を知ること、秋学期は花三郎の家の継承手法を考えることを主テーマとする)遂行のために、適宜ミーティングを行う。また学期末は成果発表を企画・実施する。
地域とともに活動するので、自分本位の予定だけでなく、地域の予定や活動の状況も鑑みて年間のスケジュールがきちんと立てられること。	花三郎の家は現在非公開です。今後の継承を模索するため、特別に地域課題実習に協力していただきました。したがって、訪問日以外に勝手に訪ねたり、敷地内で建物や植物を傷めることのない行動が出来る人に限ります。
https://oct-c.com/	今後検討します

18	19
データで捉える地域課題・地域経済2024	サコラボ
Regional Issues and Economies Captured by Data 2024	SACOLABO
課外実習プロジェクト	学生公募型プロジェクト
居城琢	藤岡泰寛
池島祥文、氏川恵次	
ishiro-taku@ynu.ac.jp	fujioka-yasuhiro-fg@ynu.ac.jp
	寺澤慶
	terasawa-kei-nx@ynu.jp
○（日本語の「日常会話レベル」が可能な方は履修・参画可能。）	○（日本語の「日常会話レベル」が可能な方は履修・参画可能。）
本プロジェクトは、横浜市と連携し、地域研究を推進する。特にGISや産業連関分析などデータ分析を通じ、地域課題の解決法を探る。研究成果は成果報告会をはじめ、横浜市の担当者の前で報告し、議論を行う。フィールドワークとデータ分析を連動させる。	左近山団地を対象とし、地域活性化を目的に活動する。地域住民からの要望と学生の関心に基づき、双方に有益な活動を目指す。
本プロジェクトは、横浜市・神奈川県をフィールドとして、学生自身が調査に取り組み、地域の素材を発掘することを目的とします。その成果を各自治体や、企業との共同研究として社会に発信することを狙いにします。	左近山団地を対象とし、地域活性化を目的に活動する。地域住民の要望と学生の関心に基づき、双方に有益な活動を目指す。団地内でのイベント、学生主体のワークショップ、小中学生の学習支援等、幅広く柔軟な活動を行っている。地域住民との交流を通して左近山団地の魅力と課題を把握し、地域に根差した活動を実施する
4月～5月 課題の設定にむけた検討会 6月～8月 活動 10月 中間報告会 11月～1月 活動 2月 最終報告会 3月 成果報告書の作成	プロジェクトごとのチームに分かれて活動する。毎月実施される商店街イベントへの参加や、独立したイベントの開催など年間を通して継続的に活動する。
実際に地域の現場に飛び込むことができる学生を求めます。みずから課題の設定、調査、活動の遂行、成果報告に向けた準備・資料作成を進める能力を習得して欲しいと思います。	対象地域のコミュニティに属し、信用を築き、主体的に活動を実施するためのプロセスを理解すること。プロジェクト内で自発的かつ継続的な活動を実践できる能力を身につけること。自身の関心を起点に、地域の課題を分析し、各々の活動へ発展させるための思考法を獲得すること。自らの学問領域と連続性を持たせながら活動し、学生ならではの視点を地域に取り入れること。
基本的には、学生自身による自主的なプロジェクト活動になりますが、担当教員を決め、1から2週に1回程度の研究打ち合わせを行います。	活動の頻度は各チームに委ねている。全体でのミーティングは月に一度、チームごとのミーティングは適宜実施。
5人以上の参加がない場合には、グループでの活動が難しくなるため、個別研究になる場合があります。参加希望者は事前に教員と相談することをお勧めします。	
	X(旧Twitter):@sacolabo_danchi Instagram:@sacolabo.danchi2022_

20	21
里山コミュニティデザイン	ローカルなマテリアルのデザイン
Satoyama Community Design	The Design for Local Materials
学生公募型プロジェクト	課外実習プロジェクト
原口健一	志村真紀
佐藤峰、倉田薫子、河内啓成、高芝麻子	
haraguchi-kenichi-kx@ynu.ac.jp	shimura-maki-pw@ynu.ac.jp
久保蒼生	
kubo-aoi-kc@ynu.jp	
○（日本語の「日常会話レベル」が可能な方は履修・参画可能。）	○（日本語の「日常会話レベル」が可能な方は履修・参画可能。）
学内の自然という身近な里地里山の資源を生かし、人と生物、自然にとってより心地よく、楽しい居場所にするための活動。	広葉樹を用いた家具制作を行い、10月にオープンする羽沢のサテライトキャンパスの空間に設置します。
横浜国立大学と言えば？と質問されたら、多くの学生が自然に関する回答をするでしょう。このように本学の自然はシンボリック的存在だと認識されています。しかしながら、学内の自然と人は互いに独立しながら、その営みを発展させていると感じます。そこで、学内の自然という身近な里地里山の資源を生かし、人と生物、自然にとってより心地よく、楽しい居場所にするために、様々な方針策定、思考をすることを本活動の目的とします	神奈川県内の森林のうち約6割は広葉樹が占め、その多くは県西地域に広く分布している。しかし、現代の生活においては調理、エネルギー、生活用品等が石油由来やガス・電気に委ねられ、里山や森林との関係を失い、森が荒廃している。また、針葉樹は建築用部材として使いやすいが、広葉樹は樹種および1つ1つの枝ぶりが異なり、材質が硬いため活用しにくい。そこで、当PJでは広葉樹を活用するための設計・製作に取り組み、地域社会に広葉樹の活用を普及させ、都市と農村・里山の間で地産地消の流れや関係をつくりだすことを目的・目標とする。
昨年度は常盤祭に出展したので、その直前期の活動が増えました。それ以外は月一でミーティングをしたりワークショップをしたりしています。	今年の秋に新設される羽沢のサテライトキャンパスに設置するために家具制作を行う。春学期：広葉樹によるスツール、ベンチ、机の制作。オープンに向けたプレゼンテーションボード等の準備・設置 / 秋学期：広葉樹の課題や、制作した家具についてのプレゼンテーションやコミュニケーション。
ESD及び里山の担い手としての自覚の向上やそのための技能習得。昨年度活動では南足柄へ赴き、芝刈り機の使い方を教わったり、里山とのかかわり方のレクチャーを受けたりしました。これらの自覚や技能を学内の自然環境の整備や里地里山との向き合いに応用することが求められます。	広葉樹に関わる基礎知識やデザインおよび技術を身につける。また、広葉樹の課題や魅力を多くの方に伝えられるようにプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高めることを目標とする。
月に一度、教育学部4号館に集まり、竹を使ったアクティビティの創発や今後の活動指針などを話し合います。また、昨年度は常盤祭にも出店したので直前期は頻りにミーティングとワークショップ、準備を行いました。	週1ぐらいの頻度で制作活動。
昨年度発足のまだまだ若いプロジェクトとなっております。それ故に活動指針などが定まらない状況など不安定なことが現状です。興味のある方、横国の自然が好きな方どんな方でも歓迎です。多くのアイデア、知見を合わせてよりよい活動を創発していきましょう。	木工作業やデザインが好きで、グループによる制作活動においてコミュニケーションを取りながら制作できる（できそうな）方を希望。
	Instagram: タグ「#ローカルなマテリアルpj」

22	23
まちに開いた交流の場のデザイン	みなとまちプロジェクト
The Design of an Open Community Space in “CASACO”	The Port City Project
課外実習プロジェクト	課外実習プロジェクト
江口亨	志村真紀
eguchi-toru-ch@ynu.ac.jp	shimura-maki-pw@ynu.ac.jp
◎（日本語が「あまり話せないレベル」の方も、英語で学修できるレベル(CEFR B2以上)であれば、履修・参画可能）	○（日本語の「日常会話レベル」が可能な方は履修・参画可能。）
野毛山の住宅地にあるシェアハウス「casaco」にて、1階にある地域に開かれた場の使い方を企画・運営し、エリアの価値向上を目指す。	地方のみなとまち(清水港)の地域資源をブランディングし、地域の魅力を伝え活性化させる活動を行います。
野毛山の住宅地にあるシェアハウス「casaco」にて、1階にある地域に開かれた場の使い方を企画・運営し、エリアの価値向上を目指す。その場の主な利用者は、地域住民だけでなく、シェアハウスに住む留学生であり、学生はそこに関わって場の価値を高める企画を実施する。また、建物の運営資金の収入源はシェアハウスの家賃であることを意識し、casacoで稼ぐモデルを立案することも目指している。	当プロジェクトでは国内外のみなとまちから学びながら、静岡県の清水港を対象地として、調査・ワークショップを踏まえて清水港周辺の地域資源:「お茶・清水次郎長・伊豆石・倉庫群・港灣線・富士山」をブランディング・エッセンスとして位置付け、港に来航する国内外の来客をはじめ、多くの方に地域の魅力を伝え、清水のまちを活性化させる活動を実施していきます。
4月～7月:現地視察、WSなどの運営の手伝い、企画立案 / 8月～9月:企画選抜 / 10月～3月:企画の実施（提案内容によって変わります）	年間を通して、連携先お茶農家さんの手伝い及び茶製品の製造・販売を行いつつ、伊豆石や倉庫群などの調査・研究活動を新メンバーも含めて計画・実施する。
地域に開いた場をつくるため、完全ボランティアでもなく、稼ぐビジネスを立案するのでもなく、その中間の方法を用いる。全国に広まりつつあるソーシャルビジネスの方法論の一端を、実践を通じて学んで欲しい。	清水区の特徴を多角的に理解した上で改善点を分析し、具体的な活動に落とし込んで実行する企画能力を身につける。また、進むべき方向性を見据えて全体の運営や組織構造を調整する能力の習得を目指す。
年間を通じて1～2回/月程度のミーティングに加え、イベント開催時は準備を含めて1週間程度。	全体ミーティング: 2週に1回から月に1回程度 その他、各班別ミーティングあり。年に数回、清水へと行く。
2名以上の応募があった時のみ実施します。また、1年間を通じて参加できる学生を希望します。	地元の企業、行政、農家、大学(常葉大学、等)との繋がりを大事にしなが、活動内容を計画していくことが必要。
CASACOの紹介 (https://colocal.jp/topics/lifestyle/renovation/20170114_89480.html)	https://www.ynu-minatomachipj.com

24	25
ワダヨコ	ハマの屋台プロジェクト ～屋台からのまちづくり考える～
Wadayoko	Yokohama Stand Project
学生公募型プロジェクト	課外実習プロジェクト
尹 莊 植	野原卓
野原卓	
yoon-jiangshik-mr@ynu.ac.jp	nohara-taku-zs@ynu.ac.jp
有倉直哉	
arikura-naoya-jg@ynu.jp	
○（日本語の「日常会話レベル」が可能な方は履修・参画可能。）	△（日本語による「専門用語などが理解できるレベル」の方は履修・参画可能。）
和田町でのイベント運営やエリアマネジメントを中心に、学生と地域の人 が互いに支えあう街づくりを目指して活動しています。	「屋台」を使ってまちの課題解決し、地域の活力向上を目指す。地域と 協働して、まちを豊かにする屋台を企画設計・製作・活用（経営）まで一 気通貫で考える。
ワダヨコは、2010年に横浜国立大学の学生によって立ち上げられた、大 学近くにある和田町との交流活動を行う学生団体です。子供向けイベン トの企画・開催や、和田西部町内会・和田町商店街主催のイベントへの 参加を中心とした活動を通して、和田町に住む方々と学生が活発に交 流し、互いに支えあう地域づくりを目指しています。また、和田町で長く 親しまれているゆるキャラ「和田丸」のプロデュースも担当しています。	「屋台」という都市に置かれるツールを用いて、まちの課題解決し、地域 の活力向上を目指す。都市型屋台を、企画設計段階—製作段階—運 用・活用（経営）段階まで、一气通貫で考えることで、地域と協働しなが ら、まちを豊かにする。関内外地区・常盤台地区での活動のほか、新た な場所での展開も検討する。
年間を通しておよそ2か月に1回の頻度で町内会や商店街、子供会のイベントに 携わっていくことを予定しています。その中でも、7月に予定している「防災フェ ア」、11月に予定している「べっぴんマーケット」、「地域たかの子祭り」の前後は普 段よりも忙しくなります。これらのイベントの企画・準備や、当日の運営のために、 メンバーの招集を随時行います。状況に応じて対面とオンラインを使い分けます。	4月：オリエンテーション、春学期：昨年度までの活動継続及び新規活動 の準備、8～9月：地域の必要に応じて活動、秋学期：企画した活動の実 施・実践。月に1回以上の定期ミーティングに加え、実際に製作したり、イ ベント・展示に参加したり、地域と協働したりするときには、作業が集中 する時期もある。
地元根差したイベントのなかで幅広い年齢層の地域住民の方と関わり ながら、多角的な視点とコミュニケーション能力を養ってほしいと考えて います。また、各々が自身の故郷への愛着をもつきっかけにもなると考 えています。学生時代にこのような経験ができるのはとても貴重であり、 必ず将来に生かされると考えています。	屋台の企画から製作、使い方検討を通じて、「企画力」・「分析力」・「実 現力」を高めるほか、地域や仲間を巻き込みコミュニケーションを採る 「交流力」、そして、最後まで実現までこだわりをもつ「熱意」。自分で自 主性をもって積極的に動き、視野を広く興味を持ち、熱意をもって活動に 参加する人の参加を求めます。
イベント運営をはじめとする活動は2か月に1回程度。ミーティングは、イ ベントの準備期に随時行います。また、町内会と商店街の会長や関係 団体のリーダーらと活動報告などの情報交換を行う場として「タウンマネ ジメント会議」を毎月1回行います。	2週に1回程度のミーティング及び不定期に地域活動（土日開催もあり）
全学部・全学年の学生の参画を歓迎しています。	地域とともに活動するので、自分本位の予定だけでなく、地域の予定や 活動の状況も鑑みて年間のスケジュールがきちんと立てられること。
HP https://wadayoko2010.com/ HP(和田丸) https://wadamaru-staff.wixsite.com/mysite X(旧Twitter) @wadayoko_twi X(旧Twitter)(和田丸) @YNU_wadamaru Instagram @wadayoko_	

26	27
「南米農村部での学びを生かした横浜『共生』プロジェクト」(えんぴつルーム)	Yokohama Univer-City(YUC)
Yokohama intercultural community building project (Pencil Room) using learning from rural South America	Yokohama Univer-City(YUC)
課外実習プロジェクト	学生公募型プロジェクト
藤掛洋子	三浦倫平
藤岡 泰寛、平野 恵子	
fujikake-yoko-mp@ynu.ac.jp	miura-rinpei-nj@ynu.ac.jp
	富樫悠也
	togashi-yuya-rw@ynu.jp
◎ (日本語が「あまり話せないレベル」の方も、英語で学修できるレベル(CEFR B2以上)であれば、履修・参画可能)	○ (日本語の「日常会話レベル」が可能な方は履修・参画可能。)
県営団地において子どもたち(含む外国につながる子どもたち)を対象に学習支援と子ども食堂の運営をNPO他と連携して行う。	常盤台キャンパスの空間活用や外部での活動を通じて、学生・教職員・周辺住民にとって魅力的な地域づくりを行います。
横浜にある県営S団地において子どもたち(含む外国につながる子どもたち)を対象に南米にあるブエン・ビビール(良い暮らし)という共助の文化を取り入れたサポート空間を作り、学習支援・食支援・傾聴(含む遊び)などを行う。履修学生たちは、NPO、行政、地域組織、地域住民との意見交換などを通じて、地域の子どもたちに第三の居場所を提供する。活動場所は団地内の一室であり、NPO法人ミタイ・ミタクニヤ子ども基金が運営。	Yokohama Univer-City(YUC)とは、「大学をまちに開く」をコンセプトに始まった学生主導型プロジェクトです。常盤台キャンパスの空間活用やコミュニティの創造を通じて、学生・教職員・周辺住民にとって魅力的な地域づくりを行います。また外部での活動を通じて小学生から高齢者の方までひろく学生と親しむ機会をつくります。昨年度は3つのプロジェクト(以下PJ)に分かれて活動しました。勿論PJの掛け持ちもOKです。
えんぴつルームは、毎週土曜日10時～12時で実施。履修学生は月1回を(交代で)担当し、企業他への連絡(食材手配)、子ども食堂(お弁当を詰める作業と子どもへの手渡し)、当日の子どもサポートを行う。定例会(週1～2回、オンライン等)で意見交換を行い、クリスマス会(12月)などの企画・実施。希望者は、秋祭り(9月)、餅つき(12月)への参加も可能。年度末の地域実践アワードにおけるプレゼンテーション。	PJ内の分担ごとに、活動内容や関係主体によってチームメンバーによって自主的に決定されますが、各学期の中頃～末頃にかけて各PJが実践的活動を行います。また春秋各学期のうち片方を準備期間とし、もう片方でイベントを開催するなど柔軟な組織運営を行います。
【知識】日本社会の子ども(含む外国につながる方々)の状況を文献や行政資料から読み解く。【技術】団地やその周辺居住する子どもたち(含む外国につながる子どもたち)の状況を観察したり、インタビューをしたりするを通し、調査結果を報告書などに取りまとめる技術を習得する。【能力】インタビュー能力、ヒアリング能力、他組織との連携・企画・交渉・調整能力、コミュニケーション能力を習得する。	PJ内外の人々と積極かつ柔軟なコミュニケーションをとることができること。個々人がもちうる知識や情報を活用し、学生独自のアイデアを生み出し、その実現のために主体的な行動ができること。日々の大学の講義で学んだことを実際に社会で活かすためにどのような工夫が必要であるか考える力を持つこと。
毎週月曜日の昼休み12時15分～12時50分(ハイブリッド)/毎週あるいは隔週オンラインにて話し合い(学期はじめに決定)/土曜日10時～12時 えんぴつルームへの参画/ * 土曜日のえんぴつルームに参加できる人を3名ほど募り、順番に回しています。/ * クリスマス会などの季節のイベントの時は5名程度で実施、餅つきや秋祭りに人数制限はありません。	全体ミーティングとチームごとのミーティングなど、最低週に一度の活動を目安にしています。
笹山団地への交通費は、定期がない場合は実費を校友会、あるいはNPO法人ミタイ・ミタクニヤ子ども基金より支払います。学生会計を1名役職として設置しています。	学部や学年を越えて、個性的なメンバーで楽しく活動しています！昨年度開催した「小学生のためのオープンキャンパス」をはじめ継続するプロジェクトも多数あります。人と関わって何か地域に活かせることを創りたいと思っているそのあなた！ぜひHPやSNSで活動の様子を見てください！
https://www.facebook.com/ynu.mitaimitakunai/ https://yoquita.com/social_action/yokohamainclusionproject/	HP: https://104scape.wixsite.com/yokohama-univer-city X: https://x.com/104ura_pj_YNU Instagram: https://www.instagram.com/yokohama_univer_city